

＜ 地理歴史・公民 > 科 学習シラバス

科 目	日本史探究	学年・コース	3 年生 紙のまちづくり	単位数	3 単位	教科書	高校日本史 山川出版社
学習の到達目標		社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究・解決する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。					
評価の観点	A 知識・技能		B 思考・判断・表現		C 主体的に学習に取り組む態度		
評価の内容	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら、総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。		我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義・伝統と文化の特色などを、時期や年代・推移・比較・相互の関連や現代とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。		我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚・我が国の歴史に対する愛情・他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。		
評価の方法	・定期考査 ・学習活動における発言内容		・定期考査 ・予習や復習、プリント(板書)の取り組み状況 ・長期休業中の課題		・学習活動への参加姿勢や態度 ・学習活動における発言内容 ・長期休業中の課題		
学期	月	単元名・小単元名	学 習 の 指 導 内 容			評 価 の 観 点	
			A	B	C		
1 学期	4	第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 1 日本文化の始まり	<ul style="list-style-type: none"> ・遺跡・遺物など考古学上の知見をもとに、旧石器文化から縄文文化の時代の人びとの暮らしを考察する。 ・日本に本格的な農耕文化が形成され、集落間の対立抗争からより広域を支配する権力が形成されたことを、遺跡・遺物の発掘や中国の文献から考察する。 ・前期、中期、後期ごとの古墳文化の特徴や、ヤマト政権の成立と発展、中国大陸・朝鮮半島との関係について、各種金石文や文献から考察する。 ・ヤマト政権の権力争いや大陸文化との関係の変化に着目し、推古朝の政治や外交・文化について考察する。 ・大化の改新や律令国家が成立するまでの政治過程について、東アジアの変動を踏まえて考察する。 ・日本と東アジアとの関係を踏まえて、奈良時代の政治の流れを理解し、その背景について考察する。 ・律令国家の成立・繁栄期にあたる白鳳文化や天平文化について、国家仏教や唐の影響を強くうけた美術や絵画の特色に着目して考察する。 ・桓武・嵯峨天皇による律令制度の建て直しと、その後の政治制度の変質について考察する。 ・藤原北家の勢力拡大や律令制支配の衰退と地方支配の仕組みの変質が、中世的な世界を生み出していくことについて考察する。 	○	○		
		2 農耕の開始		○	○		
	5	第2章 古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開		○		○	
		2 飛鳥の朝廷		○		○	
2 学期	6	第3章 律令国家の形成 1 律令国家への道	○	○			
		2 平城京の時代	○	○			
	7	3 律令国家の文化	○		○		
		4 律令国家の変容	○	○			
3 学期	8	第4章 貴族政治の展開 1 摂関政治	○	○			
		2 国風文化	○		○		
	9	3 荘園の発達と武士団の成長	○	○			
		第II部 中世 第5章 院政と武士の進出 1 院政の始まり	○		○		
4 学期	10	2 院政と平氏政権	○	○			
		第6章 武家政権の成立 1 鎌倉幕府の成立と展開	○		○		
	11	2 モンゴル襲来と幕府の衰退	○	○			
		3 鎌倉文化	○		○		
5 学期	12	第7章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立	○	○			
		2 下剋上の社会	○	○			
		3 室町文化	○		○		
6 学期	1	4 戦国の動乱	○	○			
			○		○		
			○		○		
学習のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書をしっかり読むとともに、史料や図版・授業中の板書・プリント等を活用して基本的な知識を定着させる。 ・歴史用語をただ単に暗記するのではなく、歴史の流れの中で理解できるようにしよう。 ・テレビや本などで歴史的なものに注意しておき、現代の出来事とのつながりを意識しよう。 						